

# 国語科研究委員会

## 1 研究テーマ

国語研究委員会研究テーマ

「読む力」を育むための指導はどうあったらよいか

—— 文学的教材において友との学び合いを通して読む力を高める授業 ——

## 2 研究内容（研究課題）

- 1 研究授業実施期日 11月17日（水）
- 2 授業会場 高山村立高山中学校
- 3 題材名 生きる姿「走れメロス」
- 4 学年・授業者氏名 2学年 阿部 裕一 教諭
- 5 本年度の研究



### (1) 研究テーマ設定理由

国語研究委員会の「読む力」（文学的教材の読解学習の場面）に視点を当てた研究は今年度で3年目を迎える。新学習指導要領においては、とりわけ「言葉を通して、思考、判断し、表現する国語学習」を重点としており、「相手意識、目的意識を明確にし、考え伝え合う」学習の創造が挙げられている。

一方、生徒の実態に目を向けると、導入場面における個々の生徒の直感的（感覚的）な読みが、その後の主体的な読み深めへと結びついていかず、追究意欲を持続させながら目標を達成していくことがなかなか身につかない傾向が気になる。更に、友との関わり、読みの交流の場面をつくるが、単なる発表になってしまいがちで、友の意見の根拠に目を向け、自分の思考を見直し判断し表現する姿まではまだ達していない状態と考えられる。また、生徒が必要感を持ちながら描写に目を向けていくような学習展開を設定できているか、教材研究や単元展開の再検討が必要と考えられた。

そこで今年度はこれまでの研究の成果に立ち、新学習指導要領の内容を見通しながら、以下の2点を研究の柱とし実践研究を進めていくなかで、文学的教材の読解学習において、描写を根拠とし、互いの読みを交流し合い、自分の考えを見返しながら読みが深まるよう、言語力（読む力）を育んでいきたいと考え本テーマを設定した。

### (2) 研究の柱

#### ① 生徒の実態把握とつける力の明確化（高山中学校生徒さんの実態を中心に）

- ・生徒の読みが、感覚的、直感的な導入段階の読みのままで受け身的に進んでいき、追究の見通しを持って主体的に深められない傾向が見られる。
- ・「読む力」を高めるために必要な「つける力」とはどのようなものと考えていったらよいか、文学的教材の読解場面を中心に明確にしていきたい。

#### ② 「読む力」を育むための「学び合い」のあり方

- ・文学的教材をどのように教材研究し、生徒の実態と合わせてどのように提示していったら学び合いが活発になっていくか。
- ・生徒自身が必要感を抱きながら、意欲的に交流し共に考え学び合っていくための手だてはどのようにしていったらよいか。